

# クワン四国

No.1185  
2018年  
12月号



## 嶺北森林管理署 CLT新庁舎完成

【詳細は2頁】

### 目次

- 嶺北森林管理署新庁舎(国のCLT庁舎第1号)の披露式を開催しました… 2
- 「国有林モミタマ勉強会」を開催…………… 3
- 「天然力を活用した施業に係る現地勉強会」を開催…………… 4
- 各地のたより…………… 5



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
H P <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)



## 嶺北森林管理署新庁舎（国のCLT庁舎第1号）の披露式を開催しました

〈経理課〉

12月13日、国の庁舎で初めてCLTを本格活用した「嶺北森林管理署新庁舎」の完成披露式が開催されました。光井四国地方整備局営繕部長、鳥海林野庁管理課長、川村高知県林業振興・環境部副部長、細川本山町長、岩崎大豊町長、和田土佐町長、明坂大川村副村長、戸田高知県

森林組合連合会代表理事会会長をはじめ、多くの皆様にご出席いただきました。

冒頭、野津山喜晴四国森林管理局長から、「今日ここ高知・嶺北の地にCLT建築の全国第1号の「おおとよ製材社員寮」に続き、国のCLT庁舎第1号が誕生したことを大変うれしく思うとともに、ここ高知・嶺北から全国にCLT建築を積極果敢に発信していきたい」と挨拶しました。来賓の皆様からの祝辞では、地元の細川本山町長、岩崎大豊町長から、この素晴らしい新庁舎を拠点に民有林と国有林が一体となって地域の森林・林業を活性化していくことへの期待が述べられました。その後、四国地方整備局営繕部の森川監督室長からCLT新庁舎の工事概要説明、嶺北森林管理署長から謝辞があり、最後にCLT新庁舎完成のテープカットが行われ、新庁舎の完成を

祝いました。午後には、CLT新庁舎の完成見学会も行われました。嶺北森林管理署CLT新庁舎は、四国地方整備局営繕部（設計監修）、（株）あい設計（設計）、（株）かめお設計（監理）、（株）宮崎技研（施工）などの皆様が、地元嶺北産スギをふんだんに使うだけでなく、全国第1号にふさわしく随所に様々な創意工夫を凝らして素晴らしい新庁舎をつくっていただきました。

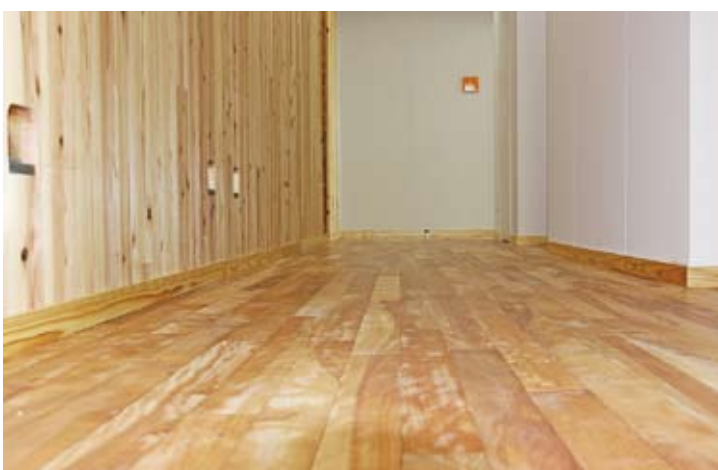


① まず、建物の前面にガラスのカーテンウォールを設置し、風雨



から建物を防護するとともに、外観からもCLTがわかるデザインにしています。

② 昭和46年に建設された旧庁舎の床は、今では大変貴重なサクラ材が使用されていました。これを研磨・修復して新庁舎の署長室や床のフローリング、階段に再利用しています。旧庁舎の緑地にあった貴重な奥工石山産の紅廉石（平成29年高知県天然記念物に指定）も新庁舎の植込みに再利用しています。



③ 森林総合研究所が嶺北産スギのラミナに新素材「セルロースナノファイバー」でコーティングしたフエンスを試作し、新庁舎の西側に設置しています。今後、耐久性等の調査を行うことにしています。

このように、地元嶺北産材を使った、「伝統」と「新しさ」が融合した素晴らしい新庁舎が完成しました。この新庁舎の建設を通じて国土交通省営繕部に様々な工夫やノウハウが蓄積され、これから全国各地で建設される国のCLT庁舎に活かされます。

四国森林管理局は、素晴らしい新庁舎の下で、嶺北森林管理署が末永く、地域の皆様に親しまれ、地域に大いに貢献できるような森林管理署になれるよう職員一丸となって努力するとともに、ここ高知・嶺北からCLT建築を全国に積極的に発信してまいります。

## 「国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整課〉

平成30年11月13日、高知県須崎市〓四万十町において、平成30年度第二回国有林モニター勉強会を開催しました。前日からの雨で足元が悪い状態でしたが、当日は好天にも恵まれ、国有林モニター15名が参加しました。



まず初めに、野津山喜晴局長から「今回の勉強会では、国有林で行われている事業を実際に見学していただき、森林を取り巻く状況について理解が深まれば幸いです」との挨拶がありました。その後、高橋東四万十森林管理署長から「四万十森林管理署の取組」について説明がありました。

最初の見学先である須崎市の朴ノ川山国有林では、スギ50年生の保育間伐（活用型）事業が行われている現場において、架線による集材からプロセッサによる造材までを見学し



ました。国有林モニターからは「林業の世界でも機械化が進んでいて大変驚いた」と言った発言もありました。

午後からは、四万十町へ移動し、植栽実施箇所である大谷山国有林において、シカ対策を含めた植栽について、石田俊郎地域統括森林官から説明がありました。続いて森林技術・支援センターからシカ捕獲小型囲いわな「こじゃんと1号」について、開発に当たって工夫した点も含め、分かりやすく説明しながら組み立ての実演を行いました。

最後に、窪川・中津川森林事務所



の津野友謹さんがドローンによるシカ防護網の見回り実演を行い、山の全景を上空から撮影しました。

モニターの方々からは、「50年かけて育ててきたものがチップで終わるとは残念」、「山深いところでの作業は想像以上に労力がかかる」などの感想があり国有林や森林・林業について、理解を深められていました。

## 「天然力を活用した施業に係る現地勉強会」を開催

〈計画課〉

10月31日、嶺北森林管理署吾北森林事務所管内の奥南川山国有林において、局・各署（所）職員、森林総合研究所四国支所、高知県森林技術センター、いの町を含め39名が参加して、「天然力を活用した施業に係る現地勉強会」を開催しました。

現地勉強会を実施した林分では、ヒノキの天然下種更新による複層林を目指して平成5～6年に帯状伐採し、平成12年に天然更新完了しております。帯状伐採の前には間伐を行っております。現地勉強会の開催に当たり、予め、森林総合研究所四国支所から

ご指導頂き、代表的な植生調査法であるベルトトランセクト法により、植生調査を行いました。現地勉強会では、ベルトトランセクト法の紹介、当該調査結果と天然更新完了時の調査結果との比較、現地確認等を行い、その後、参加者全員で意見交換を行いました。

意見交換では、参加者から、

○平成12年度当時、ヒノキの天然稚幼樹が多く発生したのは、帯状伐採の前に間伐（予備伐）を行い、明るくなったところにヒノキの天然稚幼樹が発生し、その後、帯状伐採したことでヒノキがうまく育ったということが大きいのではないかと

○「ヒノキの天然稚幼樹が残るのは、地形の要因が大きく、緩い斜面の尾根がかつたところで種や稚幼樹が残しやすい

○枝を地表面にばらまく、または木を横に置くことにより土壌の移動が抑えられると、ヒノキの天然稚幼樹が生き残る可能性がある

○広葉樹の樹種同定ができる人材の育成が必要である

といった意見が出されました。



ベルトトランセクト調査箇所  
(写真左側ピンクテープがライン)



プロット調査箇所  
(ヒノキ天然更新)

# 各地のたより



## 各地のたより 目次

愛媛国有林野等所在市町長有志協議会を開催  
 腕自慢！すもう大会に参加  
 火鎮安穂を祈願して  
 大板中学生、郷土の山でボランティア作業  
 中村小学校で森林教室を開催  
 秋が深まる八面山で登山体験学習（四校）  
 中筋川ダムの「螢湖まつり」でかんたん木工教室を開催

## 愛媛国有林野等所在市町長有志協議会を開催

〈愛媛森林管理署〉

10月22日と23日の両日、「愛媛国有林野等所在市町長会議」を開催しました。

22日は松山市の愛媛県林業会館において、愛媛県内の国有林等所在市町長、愛媛県は佐々木秀和森林局長、外林務担当職員、四国森林管理局は野津山喜晴局長外担当職員、愛媛森林管理署は、間島重道署長外の担当者が出席し、総勢31名での開催となりました。

開会にあたり、野津山四国森林管理局長と河野忠康久万高原町長のあいさつがありました。議事に移り、谷本明夫森林技術指導官から7月の西日本豪雨災害についての報告があり、続いて、四国森林管理局藤原雅章企画調整課長から、新たな森林

管理システムの創設に向けた四国森林管理局の取組について説明がありました。その後、愛媛県農林水産部と森主幹から、新たな森林管理システムと森林環境税との連携について、愛媛県における新システムの推進方策について説明がありました。締めくくりとして、林業の成長産業化に向けてと題して愛媛県農林水産部佐々木森林局長の森林林業の将来展望についての説明があり、その後、意見交換が行われました。

市町長からの、主な意見・提言としては

- 新たなシステムや森林環境税が導入されることになるが、実行には人材や現場での担い手対策が必要
- 市町における技術者・人手不足や林業事業体等の担い手不足により、新システムの導入や譲与税の有効活用が難しい状況であり、対応策が課題となっている

○国有林の低コスト化等の取組みについては、今後とも民有林へ紹介していただきたい

○七月の西日本豪雨災害で、四国の森林の崩壊が少なかつたのは、人工林の間伐等が適切に実施されてきたからではないか

○国有林は各市町の水源に位置しており、今後とも災害に強い森林整備をお願いしたいなど

これらの意見・提言等について、活発な意見交換が行われました。愛媛森林管理署としては、こういった意見を踏まえ、新たなシステムや森林環境税の導入を見据え、県及び市町等の要望に応えるため、より一層連携を強めながら、これからも災害に強い森林づくりの推進に取り組んでいくこととします。

23日は、久万高原町内の狼ヶ城山国有林において、ドローンの自動飛行による林野パトロールと架線作業におけるリードロープの掛け渡し作業のデモンストレーションを行い、その後、実際に体験することで、林業現場に広がるドローンの可能性を実感して頂きました。



自動飛行の説明



会議の様子



## 腕自慢！すもう大会に参加 かちんあんの 火鎮安穩を祈願して

〈高知中部森林管理署〉

11月18日に香美市物部町大柵の八王子宮内相撲場において、第61回火鎮奉納相撲大会が開催されました。火鎮際は昭和32年11月29日、22棟が全半焼するという大柵町内の大火を機として、再度このような惨事を起こすことのないよう、町内の火鎮安穩を祈願して昭和33年から毎年執り行われております。

これまで、高知中部森林管理署からも毎年のようにチームを作って出場していましたが、職員数の減少等により、最近4年間は出場がありませんでした。しかし、今年は森野清繁署長を監督に、先鋒に馬門辰美総括事務管理官、中堅に萩野伸二地域技術官、大将に野津山喜晴局長と、腕に自慢の職員によりチームを作り、久々の出場となりました。

最初に30人の参加による個人戦が行われ、当署の馬門総括事務管理官が高校時代に柔道で鍛え上げた腕力を活かし、順当に勝ち上がって見事ベスト4に輝きました。

個人戦に引き続き行われた団体戦では南国警察署（5チーム）をはじめ、香美市消防署、県林業事務所、地元消防団、大柵小中学校、森林組合など猛者揃いの18チームで予選が行われ、3試合を2勝1敗、勝ち点7の5位で予選通過をし、見事8チームによる決勝トーナメントに進出する快挙を成し遂げたものの、健闘むなしく強豪の南国警察署Bチームに惜敗を喫しました。

白熱した好取組が広げられた後、野津山局長と中谷衆議院議員による結びの一番が行われ、両者正面からがつぶり4つに組み合った後、立て行司の「待った、この勝負、来年に



相撲をとる野津山局長

持ち越し」の裁きにより、全取組を終了しました。

取組終了後に、2賞の選考委員会が行われ、敢闘賞が野津山局長、技能賞に馬門総括事務管理官が輝き、森林管理署チームが見事2賞を総ナメする大健闘で幕を閉じました。

高知中部森林管理署では、今後もこつこつとした地元行事に積極的に参加し、国有林の顔として地域との交流を図っていききたいと考えております。

## 大柵中学生、郷土の山で ボランティア作業

〈高知中部森林管理署〉

11月20日に大柵中学校の全校生徒を対象に、森林環境学習・ラス巻き（樹木の幹をシカの被害から守るための網の巻きつけ）ボランティア2018を実施いたしました。この催しは、ふるさとの自然環境を自らの目で確かめ、ラス巻きの体験を通じて森を守る郷土愛を養うことを目的に、大柵中学校で3年に1度行われている恒例行事です。3年に1度ということ、生徒達はいずれかの

学年で1度はラス巻きを体験できるように計画されており、持続可能な森林環境づくりや郷土の山の保全について学ぶ重要な機会となっております。当初は7月上旬に実施が計画されていたものの、7月豪雨、その後の日程調整などにより一時は今回の開催が危ぶまれましたが、学校側の強い熱意と署としても在学中に1度しかない体験を生徒達に提供したいという想いが実を結び、降雪前に開催することが出来ました。

当日は、大柵中学校の生徒・教職員42名が参加し、当署からも10名の職員が参加しました。生徒達は、現地での作業に先立ち教室で約30分、三嶺の森を守るみんなの会会長の依光良三高知大学名誉教授の講話を聞き、三嶺周辺の森林の状況やシカ被害対策への取組などについて簡単な概要を学んだ後、現地へマイクロバスで移動し、6班に分かれて作業を開始しました。作業の前段であるラスを必要な長さに切断する作業1つとっても、思ったようにはさみが使えず、「ここを押さえた方が作業をしやすいよ」とか「反対側からももう1人が切っていけば早く切断でき

るよ」といった職員のアドバイスを受けながら、作業を進めました。職員もなるべく本人達にやってもらうことを大切にし、必要な助言を適宜していくことを念頭に作業を見守りました。最初は1本の木にラスを巻き終えるのに時間がかかった生徒達ではありましたが、さすがに中学生達は飲み込みが早く、各班とも2本目3本目へとあっという間にラスが巻かれていき、終盤にはラスを巻く対象木を探さなければならなくなるほどで、「その木は私たちの班が次に巻く予定だから取ったらダメ」というような会話も飛び交い、時間的に巻けて1班あたり数本かな?と心配していた職員の予想を裏切り、各班とも手持ちのラスを巻ききる好結果となりました。作業を終えて林内から集合場所に戻ってくる生徒達の顔は、いずれも達成感と満足感に満ちあふれたものとなりました。



長の熱心な林内講話が尾を引き、次の機会とすることとなりました。今年には様々な事情が重なり、開催が危ぶまれた行事ではありましたが、無事に3年に1度の恒例行事を終えることが出来ました。当署においても、将来を担う中学生達が森林環境に引き続き関心を持っていただけるように、様々な取組に対して協力を続けていくこととしています。



## 中村小学校で森林教室を開催

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

四万十市立中村小学校から、「児童に、水のゆくえのお話を通して森林の大切さについて教えてもらいたい」との支援要請があり、10月4日に4年生児童45名を対象にした森林教室を開催しました。

最初に、「水源地の森林から川、水道の水、そして、水の循環について」スライドで説明しました。

次に、「浄水場と下水処理場の仕組みについて」図等で説明し、「地球上の水は循環しているので、取り尽くしてしまうことはないけれど、どこかで汚してしまうと大変なことになるので、できるだけ汚さないよう大切に利用しよう」と説明しました。

最後に、児童から、「私たちが森林を守っていかないといけないんだなと思いました」との感想があり、学校からは、「写真やスポンジが水を蓄えている様子を見せてもらい、緑のダムと森林を大切にしておくことを関連づけて話して頂き、子ども達は興味を持って学ぶことができました」



た」とお礼の言葉がありました。

当センターとしても学校の要請に応えることができ、身近な自然や飲料水の源である森林を大切に守って行くことが必要であることを理解していただき、大変有意義であったと考えています。



水のゆくえの森林教室の様子



児童の感想文



秋が深まる八面山で登山体験学習（四校）

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

四万十川の支流で黒尊川源流域の森林である八面山や吊尾根の天然林は、野生生物やシイ・カシ林からモミツガ林、ブナ林への植生の移り変わりなどつばさに観察出来る良いフィールドです。

この八面山において、10月12日から11月2日にかけて四万十市立西土佐中学校と西土佐小学校、そして、四万十市立利岡小学校、愛媛県松野町立松野西小学校の4校80名の児童生徒を対象に八面山登山体験学習を実施しました。

それぞれの学校とも準備運動の後登山口を出発し歩道沿いの樹木やニホンシカの食害などの学習をしながら約50分で八面山山頂（1,165m）に到着しました。

山頂では、高知県と愛媛県の県境や遠くに見える三本杭のすぐ右の山「横の森」に藩政時代に土佐藩と宇和島藩と吉田藩とがそれぞれの領地の境として杭を立てていたことから、それがいつのまにか「三本杭」という現在の

山の呼び名になっていること、また源流域の森林が川本来の良好な清流を育んでいることを説明しました。

その後、八面山吊尾根のブナ天然林へ移動して、「ブナ天然林の価値」や「森林のはたらき」などを説明した後、自然散策やネイチャーゲームの「カモフラージュ」や「サウンドマップ音いくつ」などをして勉強しながら秋の一日を楽しみました。

下山後に児童生徒から、「学校での事前学習や登山を通して森林のはたらきやいろいろな樹木を知ることができました。ネイチャーゲームもとても楽しかったです」また、「九州が見えて嬉しかったです」との感想がありました。

この森林教室でウリハダカエデやケヤキなど木肌の異なる木の手触りを確かめたり、ミズメの木肌はサクラと似てるけどミズメの樹液はサロニアスに似た匂いがすることやブナの実を探したり、森の土や落ち葉を手で触れてみるとフカフカなことなど、体験や学習を通して児童生徒の自然や森林等への理解と関心が深まったと思います。





10月10日、西土佐中学校で  
登山体験前の事前学習の様子



10月12日、西土佐小学校4年生  
八面山山頂にて、はいポーズ



10月15日、松野西小学校4年生  
ケヤキの木肌の手触りを確かめよう



10月15日、松野西小学校4年生  
下山経由の大久保山山頂にて



10月25日、利岡小学校全校児童  
八面山登山口で四万十森林管理署と当センター  
合同で森林教室を実施



11月2日、西土佐中学校2年生  
カモフラージュの様子





## 「中筋川ダムの『蛭湖まつり』で、かんたん木工教室を開催」

〔四万十川森林ふれあい推進センター〕  
宿毛市平田町黒川の中筋川ダムで10月28日、第23回蛭湖まつりが開かれ、四万十森林管理署と当センターが合同で「かんたん木工教室」を出店しました。

このイベントは、蛭湖まつり実行委員会の主催で地域の交流・連携およびダム事業への理解を深めることを目的として平成8年度から毎年開催されてきましたが、今後は同じ宿毛市山奈町山田で2020年完成に向け建設中の横瀬川ダムにイベントが引き継がれることから当地での開催は今年度で最後となりました。四万十森林管理署も発足時より委員会のメンバーとしてかんたん木工教室の担当として参加してきましたが、今回は四万十市中村で開催された幡多山もりフェスのイベントと重なったこともあり、四万十森林管理署と当センターで協力して対応に当たることになりました。

当日は、地元宿毛市や三原村、四万十市の連合婦人会のうまいもの市や建設業協会のミニバックホウ乗車体験などがあり、普段は公開されていないダム内部の見学や洗浄放水などが行われ、家族連れらで賑わいました。

当かんたん木工教室コーナーには、親御さんに連れられた幼児や小学生など計110名の方が訪れ、ミズメやヒメシヤラ等小枝の輪切りやヒノキ板を使ったストラップ作りやイスノキのマイ箸づくりなどを楽しんでいただき大人気となりました。

天候にも恵まれて、多くの来場者に木工クラフトづくりを楽しんでもらえたことで、国有林と地域との結びつきも深められた秋晴れの1日となりました。



## 大人気の『かんたん木工教室コーナー』

